

# 馬産地ライター村本浩平の 2023 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 1 | 4.19 [水] ▶ 6.22 [木] 開催分

4.27  
[木]

ベンバトル賞  
【エトワール賞(H3)】

ベンバトルは2014年産まれの鹿毛馬で、2022年シーズンから新冠・ビッグレッドファームで繋養されています。世界的な名種牡馬Dubawiの産駒で、現役時はUAE、ドイツ、オーストラリアでのGI勝利を含む重賞10勝と、まさに父の名を世界中に広めていくような活躍を残し続けます。また重賞勝利のうち9勝が芝のレースで、ドバイターフではリアルスティール、ヴィブロスといったGI馬を退けて優勝。産駒にも父譲りと言える芝適性の高さが期待できそうです。2022年シーズンには108頭の繁殖牝馬に配合を行い、この春にはGI3勝馬タイトルホルダーの母である、メーヴェとの間に牝馬を誕生させました。

5.4  
[木・祝]

フィエールマン賞  
【北斗盃(H3)】

フィエールマンは2015年産まれの鹿毛馬で、2021年シーズンから日高・ブリーダーズ・スタリオン・ステーションで繋養されています。父は昨年まで11年連続でリーディングサイアーとなっているディープインパクト。その産駒の中でも菊花賞と天皇賞・春を連覇するなど、ステイヤーとしての高い資質を見せていました。その一方で5歳時の天皇賞・秋では、勝ったアーモンドアイから半馬身差の2着に好走。3歳から5歳にかけての12戦で、掲示板を外したのは凱旋門賞(12着)だけという、安定感のある走りも産駒には遺伝されそうです。2021年シーズンには107頭、2022年シーズンには81頭に配合を行っています。

5.11  
[木]

ゴールドシップ賞  
【コスモバルク記念(H2)】

ゴールドシップは2009年産まれのアシカ馬で、2016年シーズンから新冠・ビッグレッドファームで繋養されています。2歳から6歳までの28戦でGI6勝をあげた競走成績もさることながら、そのやんちゃな性格が引き起こした数々のエピソードは、より個性を引き立たせました。初年度産駒のブラックホールが札幌2歳Sを優勝すると、2年目産駒のユーバーレーベンがオークスを制して、父にGIタイトルを授けてみせます。産駒は芝の中長距離を得意としており、また成長力の高さを示すかのように、ウインキートス(目黒記念)と、ウインマイティ(マーメイドS)が重賞を勝利と、古馬となってからの活躍も目立っています。

5.25  
[木]

マジェスティックウォリアー賞  
【ヒダカソウカップ(H3)】

マジェスティックウォリアーは2005年産まれのアシカ馬で、2016年シーズンから浦河・イーストスタッドで繋養されています。現役時は7戦2勝ながらも、デビュー2戦目にGIホープフルSを優勝。2009年シーズンからアメリカで種牡馬入りすると、GI4勝のPrincess of Sylmarといった活躍馬を送り出して注目を集めます。日本でも輸入馬のベストウォーリアが南部杯を連覇するなど、評価を高めていく中での導入が決定。日本産馬からもダート重賞で2勝をあげたサンライズホープや、東海Sを優勝したプロミストウォリアを送り出します。2歳世代は125頭が血統登録されており、ダート戦を中心に攻勢をかけてきそうです。

6.15  
[木]

ルヴァンスレーヴ賞  
【北海優駿(ダービー)(H1)】

ルヴァンスレーヴは2015年産まれのアシカ馬で、2021年シーズンから安平・社台スタリオンステーションで繋養されています。シンボリクリスエス産駒の中でも際立ったダート適性の高さを全日本2歳優駿の優勝で証明すると、3歳時にはジャパンDダービー、マイルChS南部杯に続いて、チャンピオンズCも勝利。3歳馬での同レース制覇は史上4頭目の快挙であり、その年のJRA賞最優秀ダートホースにも選出されました。スタッドインした2021年シーズンには223頭の繁殖牝馬を集め、新種牡馬ながら国内繋養種牡馬の最多種付け頭数を記録しました。昨年も196頭の繁殖牝馬に配合を行うなど高い人気を誇っています。

6.22  
[木]

サトノダイヤモンド賞  
【赤レンガ記念(H3)】

サトノダイヤモンドは2013年産まれのアシカ馬で、2019年シーズンから安平・社台スタリオンステーションで繋養されています。誕生した年のセレクトセール当歳セッションでは、血統の良さだけでなく、好馬体も評価される形で2億3000万円(税抜)で落札。その期待に答えるかのように、3歳時の皐月賞で3着、日本ダービーでは2着となり、最後の1冠となる菊花賞でタイトルを掴み取ります。その年の暮れには有馬記念にも出走して、初対戦の古馬たちを退けて優勝。その年のJRA最優秀3歳牡馬にも選出されました。初年度産駒は現3歳を迎えており、父と同じようにクラシック戦線での活躍も期待されています。

今シーズンは  
特別競走10レースも  
「スタリオンシリーズ競走」  
として開催!

- 門別1回・フリオソ賞
- 門別2回・スーパーステーション賞 **新種牡馬**
- 門別3回・ディスクリートキャット賞
- 門別4回・マテラスカイ賞
- 門別5回・タリスマニック賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。\*生産牧場が海外の場合は付対象外となります。

